

# 図書だより

平成31年2月21日  
秋田県立視覚支援学校  
図書委員会発行  
No.9

## 卒業・修了生の皆さん、おめでとうございます！

県内各地の小正月行事も終わり、春の訪れが待ち遠しい頃となりました。早いもので、卒業式まで残り2週間を切りました！

卒業・修了生の皆さん、いろいろお世話になりありがとうございました。皆さんがそれぞれの道に進まれ、お元気でご活躍されますようお願いしています。**少し早いですが、ご卒業・修了おめでとうございます！**



◆さて、今月は、詩人、くどうなおこ工藤直子さんの詩をひとつ紹介します。

### うちゅう・いるか

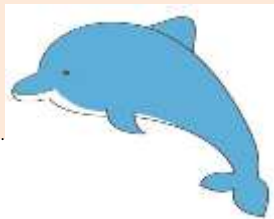
いるかゆうた

うちゅうがうまれて なんびやくおくねん  
ちきゅうがうまれて なんじゅうおくねん  
ながいながい じかんのなかで  
ちきゅうに いのちが あふれてる

そんな でっかい うちゅうでおよぶ  
ぽっちり ちいさい ぼくだけど  
ぴかっと ひかる いのちをだいて  
いま こころ ぼくはいます！

「うちゅうの ちゅうしんてん」になって  
きらりと とき

(※ 光村図書 中学一年国語教科書より)



【工藤直子について】1935年（昭和10年）、台湾生まれ。日本の詩人・児童文学作家。主な著書、詩集「てつがくのライオン」、童話「ともだちは海のにおい」、随筆「まるごと好きです」など。平易な言葉を用いた子ども向けの詩を多く作り、「おれはかまきり」（『のはらうた』所収）など、国語教科書にのっている作品も多い。

図書委員による「おすすめの本コーナー」  
今年度最後は、**専保1年 S. M.** (図書委員長)さんです！

「トロッコ」 あくたがわ りゅうのすけ  
芥川 龍之介 著



私のおすすめの一冊は、芥川龍之介の「トロッコ」です。  
最初にこの本を知ったのは、ライトノベル小説からです。その中  
に、はじめの一文が紹介されていて、それがきっかけで気になり、  
読んでみました。

本の内容は、主人公が、少年期に鉄道の建設現場のトロッコ作業員に あこが 憧れてトロッコを押して遠くまで行ってしまい、帰り道がわからなくなり、泣きながら家に帰った少年期を思い出すという話です。

アメリカのスタンドバイミーみたいな話だなと思いました。  
もし良ければ、読んでみてください。

【芥川龍之介について】1892年(明治25年)～1927年(昭和2年)。東京生まれ、日本の小説家。作品の多くは、短編小説である。「芋粥」「いもがゆ じごくへん 地獄変」など、「こんじゃく 今昔物語」や「うじしゅうい 宇治拾遺物語」の古典から題材をとったものが多い。「くも とししゅん 蜘蛛の糸」「とししゅん 杜子春」は、児童向けの作品で、図書室に拡大本もあります。どうぞご利用ください！

図書ボランティアさんによる「おすすめの本コーナー(1)」

◇Nさんより おすすめ！



かむさり 「神去なあなあ日常」 かむさり 「神去なあなあ夜話」 やわ  
三浦 しをん 著 (徳間書店)

高校卒業と同時に三重県の山村に放り込まれた主人公が、きび 厳しい林業の現場で、様々な人々と出会い、成長していく物語です。仕事の厳しさに負けず、それを少しずつクリアして、生きがいを感じていく主人公の姿に たの 頼もしさを感じます。続きものの「神去なあなあ夜話」もとても楽しいです。

【注】「なあなあ」とは、かむさり 神去村の人々の口癖で、くちくせ 「ゆっくり行こう」という意味のようです。